

1 単元の概要

単元名 「防災小説」

授業の概要：「防災小説」とは、自身が災害に遭遇した状況を想定し、自分を主人公として生還する物語を綴るものです。資料を活用して具体的な被災状況をシミュレーションしたり、その場での心理状態や判断を詳細にイメージしたりして、リアリティーのある防災小説を創作していきます。

	目標	評価規準	評価資料
知識 技能	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。	防災に関する信頼性の高い情報源を選び、正確な情報を収集している。 防災に関する知識を適切に小説に反映している。	構想メモ あとがき
思考 判断 表現	「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。	地震発生時の様子を生々しく想定し、必然性を持ってリアルに描写している。 主人公(自分)の行動や感情が、違和感なくリアルに描かれていて、読者に適切な防災知識や行動、被災者の心情が伝わるものとなっている。	防災小説
主体的 に学習 に取り組む 態度	他者に防災の重要性を伝えるために、より印象的な小説の表現になるように何度も練り直すなど、試行錯誤しようとしている。	教師、級友、生成AIなどからのフィードバックを受け、作品がよりよいもの(防災の重要性を伝える、より印象的な小説の表現にする)になるように改善しようとしている。	観察 防災小説の 推敲過程

2 単元の展開

単元の流れ (全5時間)

創造的活動(創作表現)	
自分が災害に遭遇した状況を想定し、自分を主人公として生還する「防災小説」を創る。	
課外 (総合)	釜石市を訪れ、被災地の具体的な状況、被災者の心情などについて見聞する。
1	「防災小説」の概要について知る。 小説の基本的な設定(時・場所・人物)を考える。 震災時の「九死に一生」の状況を考えてシミュレーションを試みる。
2	シミュレーションに基づいた、小説のプロット(仮)を完成させる。 小説を執筆し始める。
3 (本時)	前時に作成したシミュレーションやストーリーについて、グループで相談会を行う。 コーチやリサーチャーにより、具体的な被災状況を明らかにしていく。生成AIにも首都直下型地震の被害状況についてシミュレーションをしてもらうなどして考証する。 級友や生成AIのアドバイスを受けて更に洗練させる。
課外 (総合)	校外学習「そなエリア東京」で防災体験学習をし、地震が起きた時の状況や心境を調査する。
4・5	「防災小説」を執筆、完成させ、Canvaで本文、挿絵をつけて完成させる。

本時(3/5時)の流れ

本時の目標

ストーリーを様々な観点から見直し、適切な防災知識をふまえた、必然性のある状況・行動・心理描写になるように練り直す。

1 本時の流れを確認する。(5分)

2 ストーリー相談会(1人8分。35分)

目的:よりリアリティーのある防災小説を作る。

(4人グループで次の役割を交代する)

- 作者:「防災小説」の構想を具体化させる。
- コーチ:不明確な点を指摘し、具体化させる。
- リサーチャー:生成AIを操作するなどして、主人公が遭遇する被災状況を考証する。

○司会:相談会を進行する。(コーチも兼ねる)

流れ:

- ①「作者」は地震発生時の設定だけ伝える。
- ②グループ他の生徒は
「ここはどうなっている?」不明確な部分を質問。
「きっとこうなるだろう」と展開を想像する。
(状況は? 行動は? 心情は?)
- ③生成AIにもシミュレーションしてもらう。

3 ストーリー相談会でのやり取りを踏まえ、ストーリーをさらにリアリティーのあるものとなるように練り直す。(10分)

本単元で引き出される、創造的思考の習慣

創造的思考のプロセス（試行錯誤と創意工夫）	創造的思考の習慣（赤字はキーワード）
思いや問題に気づく	<ul style="list-style-type: none">● その状況で何をどう感じるか、自分の感情や意思に焦点を当てる● 物語(出来事)を語る視点を意識する（一人称視点・三人称視点）● それぞれのキャラクターの違いや個性に気づく
アイデアを思い描く【拡散的思考】	<ul style="list-style-type: none">● 「もしも…」という仮説を考える● シミュレーションする（複雑に関連し合うシステムを捉える）● 予想外の出来事を想定する（バイアスを意識する）
アイデアを実行する【収束的思考】	<ul style="list-style-type: none">● 文体や構成に注意して物語の表現様式（会話文・地の文）で書く。● 物語のクライマックスや結末に向けて、出来事の因果関係をつなげて配列する
アイデアを振り返る【メタ認知】	<ul style="list-style-type: none">● 自分が伝えたいことと、読者に伝わることの違いを理解する● 言葉の選び方によって変わる印象の違いに気づく

本単元での、創造的思考を引き出す実生活・実社会とのつながり

修学旅行で釜石市(鵜住居地区)を訪問。現地の方の震災学習を行う。



「いのちをつなぐ未来館」で展示されている「防災小説」と出会う。



「そなえりあ東京」での震災体験学習



実生活から国語科授業へのつながり

- 「防災小説」を創作することを通して、物語の基本的な構成要素を理解し、創作や鑑賞に活かす。
- より信頼性の高い情報を集め、整理して「防災小説」に活かす。

国語科授業から実生活・実社会へのつながり

- 完成した「防災小説」を「命をつなぐ未来館」に寄贈し、来館者にも読んでもらう。
- 「防災小説」創作の学習によって自分ごととなった防災の知識を保ち、いつ地震が来てもいいように備える。

「防災小説」ストーリー相談会

目的: 地震を自分ごととしてとらえ、正しい防災知識の重要性を読者に生々しく伝えるために、よりリアリティのある「防災小説」を作成する。そのために、グループで助言し合い、作品の完成度を高める。

グループで次の役割を交代

1. 中) 作者
「防災小説」の構想を語る
2. 右) リサーチャー
生成AIやネットなどを駆使し、被災状況を具体的に考証する
3. 左・奥) コーチ (聞き手)
不明な部分を聞き出したり、アドバイスしたりする。

流れ

- ① (3分) 作者はプロットを語る。
「〇月〇日に、〇〇で地震がおきた話で・・・」
- ② (3分) コーチが、気になった部分を掘り下げる
状況は? 行動は? 心理状態は?
「ここはどうなっている?」(詳細を詰める)
「きっとこうなるよね」(予想する)
「それはリアルだ/それは無理がある」(評価する)
「こうしたほうがよりリアルだ」(助言する)
- ③ (2分) リサーチャーによる考証
生成AIのシミュレーション結果を伝える。
(リサーチャーは②を聞きながら作業しておく)

創造的思考を引き出す授業の仕掛け

構想メモ

小説執筆の際には、設定やあらすじなど最低限押さえるべきことをメモするために補助ツールとして活用。
これをデジタルデータとして共有し、お互いに確認し合えるようにする。

防災小説「お茶中生の奇跡～九死一生ストーリー」

1 小説の設定

いつ(時)	2024年 月 日 時 分 ※7月～9月までの間とする。	何をしている?どんなタイミング?
どこで(場所)	場所	より具体的に言うと?
だれが(登場人物)	自分(必ず仮名にすること!)	どんな人柄?(行動・心情パターン)
	他の人	どんな人柄?(行動・心情パターン)
九死に一生のピンチ(クライマックス)	クライマックス	伏線はどうする?
結末		結末ルール 物語は希望をもって終わること
最後の一文		

2 小説のプロット(被災状況のシミュレーション) できるだけ詳細に!

1.

生成AI

「防災小説」用にカスタマイズした GTPs を用意。生徒の発想や疑問に対して柔軟に情報提供ができるようにして、個別にフィードバックできるようにした。



防災小説アシスタント いのちまもる君

KOKI WATANABE が作成

リアリティーのある防災小説を執筆するのをサポートします。

地震の際の避難行動について教えてください

中学校の教室で大地震。どんな危険性がありますか

被災後の心理状態をどう描写すればいいですか?

防災小説の構成のヒントを教えてください

※GTPsに事前に読み込ませている資料(Knowledge)

- 被害想定
東京都防災会議「首都直下地震等による東京の被害想定報告書」
- 防災計画
「東京都地域防災計画」
- 防災関係のハンドブック
「東京防災」新旧版、「東京暮らし防災」「東京都防災ハンドブック」「DOCOMO防災ハンドブック」
- 過去の震災の体験談、被害報告
阪神・淡路大震災、東日本大震災、関東大震災
- 防災小説のサンプル
大木研「防災小説」、他校の中学生が書いたもの

メモ:「防災小説」に関する先行研究

高木公裕(2022)「自分事の世界創作という言語活動の教育的価値の検討: 単元『防災小説を書く』にある世界創作の可能性を探る」佐賀大言語教育 6 66-80, 2022-02-28

中学生による「防災小説」が他者に与える影響—高知県土佐清水市での取り組みの考察—
所里紗子、薄井 慧、川崎 彩奈、永松 冬青、大木 聖子

<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/G02-08/public/pdf?type=in&lang=ja>

「防災小説」の理論的考察 —高知県土佐清水市立清水中学校における防災教育
大木 聖子、永松 冬青、所里紗子、山本 真帆

https://www.jpgu.org/meeting_2018/SessionList_jp/detail/G-04.html#:~:text=%E5%A4%A7%E6%9C%A8%20%E8%81%96%E5%AD%90-,%E4%BA%88%E7%A8%BF,-11%3A15%20%2D%2011

杉山高志・矢守克也「「Days-After」の視座を用いた防災活動の分析」実験社会心理学研究 第62巻 第2号 2022年

内田伸子(1990)『子どもの文章 書くことと考えること』東京大学出版会 『物語文法』として、「物語は「設定」+「事件」+「目標」+「解決の試み」+「解決」+「結果」+「心的反応」という基本的な構成要素と、その配列